

令和4年2月14日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それではただ今から、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

今日の話題は2件であります但其の前に一言申し上げます。このたび、新型コロナウイルスに感染してしまい、皆様方には大変ご心配をおかけいたしました。毎日の検温も欠かさず行い、最近では感染の拡大を受け、1週間に1回、自主的にPCR検査を受けており、その一環で2月4日の金曜日に民間のPCR検査で検査を受けた結果、陽性が判明してしまいました。それから本日まで症状は出ることなく、この時間を迎えることができましたが、自宅では同居する家族と接触の機会をできるだけ減らす、公務でもちょっとした打ち合わせも全てオンラインで行わなければならないなど、たとえ無症状であっても感染してしまうことによって、自分の身に降りかかること、周りの方への影響、身をもって実感いたしました。自分自身、改めて気を引き締めて公務に当たらせていただきたいと思っております。

もう一点ご心配をおかけしてしまったこととして、歴史博物館の工事について、建築基準法で必要な申請をする前に一部工事を行っていたことや、部材の一部が計画とは異なる部材が用いられていたということがありました。大変申し訳なく思っております。原因は職員のミス、具体的には確認不足と業者さんとのコミュニケーション不足でありました。再発防止策を徹底するとともに、本日の話題の一つである令和4年度の当初予算案の中でも新年度の大きな取組の一つに位置づけている事業でもありますので、1日も早く工事が再開できるよう取り組んでまいります。

それでは1つ目の話題、令和4年度当初予算の概要について、お伝えいたします。お手元にA3判の資料、令和4年度当初予算案の概要を記者の皆さんにお配りしておりますのでご参照ください。また、すでに記者に皆さんには、財政局のレクを受けていると報告をもらっていますので、私からはポイントのみ簡潔にお伝えをいたします。

一般会計は3,378億円と、新型コロナ対策などに力を入れていくために、これまでの最大であった今年度の予算案に比べ81億円、2.5%増え過去最大のものとなりました。さらに「2つのLife」を守る取組みなどについては、国の16か月予算の考え方と連動して、2月補正予算と一体で編成し切れ目なく実施してまいります。

それでは、新年度の予算案の大きなポイントを説明いたします。1つ目は、新型コロナウイルス対策です。感染防止策の徹底と経済回復の実現に向けた取組に予算を重点配分してあります。静岡市の新型コロナ対策の指針「2つのLife」のもと「いのち」と「くらし」を守る取組みを強力に進めてまいります。まず、市民の皆さんの安全、

安心を確保するために、ワクチン接種に係る経費を計上しました。3回目の接種に加えて5歳から11歳のお子さん方の接種機会を確保するとともに、PCR検査や入院医療費の助成など健康管理の支援を行うことによって適切な検査、ならびに治療へ結びつけ、まん延防止を図ってまいります。さらに、地域経済の活性化とまちの賑わいの創出のために、中小企業の事業高度化に要する機械設備の導入について支援するとともに、イベントの開催と消費の促進を連携させることによって、まちの賑わい回復と消費拡大を図ってまいります。

2つ目のポイントは、3次総の仕上げとして5大構想を着実に推進する取組を予算に反映しました。中でもとりわけ歴史文化の拠点づくりのメイン事業である歴史博物館について、来年1月のグランドオープンを目指し整備を進めてまいります。先ほど申し上げました通り、現在、一部工事が止まっておりますが、1日でも早く工事を再開させ、今年7月のプレオープン、そして来年1月のグランドオープンを目指してまいります。また、この歴史博物館のグランドオープンと時を同じくして、来年のNHK大河ドラマ『どうする家康』の放送に合わせ大河ドラマ館を開館いたします。これは大変な強みになるかと思えます。歴史博物館と大河ドラマ館を車の両輪に歴史文化の拠点、すなわち駿府城公園周辺エリアから静岡市の歴史の価値と魅力を市内外に発信するとともに、観光客を呼び込んで徳川家康公ゆかりの地をはじめとする市内観光地への周遊を促す取組を進め、地域経済の活性化につなげてまいります。

さらに、海洋文化の拠点づくりのリーディングプロジェクトである「仮称海洋・地球総合ミュージアムの整備を進めてまいります。新型コロナウイルス感染症の影響により一時停止しておりましたが、アフターコロナを見据えて民間事業者の皆さんの投資意欲も戻りつつあるこのタイミングを逃すことなく、事業を再開する必要があると判断いたしました。令和8年早期の開館を目指し、新年度はパートナーとなる事業者の募集を開始します。この「海洋・地球総合ミュージアム」の整備という公共投資を呼び水にして民間投資を促し、地域の経済活動の活性化につなげていきたいと考えております。

さらに、環境保健研究所の移転整備をはじめとする教育文化の拠点づくり、認知症ケア推進センター「かけこまち七間町」の運営といった健康長寿のまちの推進、そして、市民文化会館の再整備といった「まちは劇場」の推進など4次総につながるよう、この3次総、5大構想を着実に進めてまいります。

その他として、デジタル化の加速や脱炭素社会の実現といった経済社会変革を目指す取組、同報無線のデジタル化や道路橋梁の耐震化などの防災、減災、国土強靱化に資する取組を、国や県などと連携しながら進めてまいります。

以上が令和4年度当初予算案の大きなポイントであります。なお、詳しくは17日の市議会本会議の場において、施政方針を述べさせていただきます。その中で、この予算案に込めた私の想いや決意の一端を改めてお伝えしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2つ目は、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金についてであります。住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金は、住民税が非課税である世帯とコロナ禍の影響で家計が急変した世帯を対象としています。本市においても迅速な給付が行えるよう準備を進めてまいりました。まず、非課税世帯については給付の対象となる約 74,000 世帯へ今月 1 日から受給のために必要な書類を発送し、9 日までに 6,560 世帯からの返送がありました。

給付を受けるために、書類の返送が必要となりますので、お手元に届いた書類に必要な事項を記入いただき、同封されている返信用封筒で返送をお願いします。給付までには、書類の受け付けの後 3 週間程度のお時間をいただきますので早めの返送をよろしくお願いいたします。なお、初回の給付は 2 月 22 日火曜日を予定しています。そして、家計急変世帯への給付については、1 月以降に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて収入が減少し、住民税が非課税の世帯と同様の水準となった世帯が対象となります。こちらの給付を受けるためには、ご自身での申請が必要となります。今月 16 日水曜日には、市ホームページへ申請に関するご案内を掲載し、来月 1 日から申請書の配布や受付が開始できるよう準備を進めております。さらに、書類の記入方法や制度についてのお問い合わせにお答えする専用のコールセンターや、各区役所に臨時的相談窓口を開設しています。ご不明な点がありましたらお問い合わせいただきたいとお願いいたします。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただいまの当初予算案と臨時特別給付金に関するご質問をまずはお受けしたいと思います。いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。まず、今回の当初予算案ですけれども、市長のネーミングといいますか、命名するとすればどういったことかということと、先ほど市長もおっしゃっていたように第 3 次総合計画の総仕上げ、最終年度に当たると思うのですけれども、予算の評価といいますか、特に 5 大構想、新しいプロジェクトもいろいろ動きますけれども、そのあたりお考えをお聞かせください。

◆市長

はい。まず今年の当初予算、一言で言うと「2 つの L i f e 予算」と名付けたいと思います。昨年と同じであります。感染症がまん延している状況をふまえ、市民の安全安心の確保やポストコロナを見据えた地域経済の活性化と賑わいの創出、これを最優先で取り組んでいく必要があるという気持ちを込めました。5 大構想については、コロナ禍のあおりを受けて計画の一部が凍結をせざるを得なかったわけではありますが、しかし、

一方で新年度は、3次総8年間の最後の1年であります。でき得る限りこの計画の達成のために、着実に取り組んでまいりたいというふうに思っています。以上です。

◆静岡新聞

すいません。財政ですけれど、今後なかなか厳しい、今年は市税なんかも少し増えて一時落ち込んだ財政調整基金なんかも少し回復はしてきていると思うのですけれども、今後も財政の厳しい状況が続くと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りですね。今回の予算編成の参考資料として作成しました財政の中期見通しによりますと、令和5年度以降の3か年で約62億円から73億円程度の財源不足が生じると試算されております。今後も厳しい財政状況が続くという認識のもとで市政運営していかなければなりません。その中で財政規律を堅持したうえで、先ほどご質問いただいた3次総の仕上げ、そして4次総の策定という作業をしていかなければなりません。次の行財政改革の推進大綱に基づく行財政改革も並行して進めていく必要があると思います。その中で私が、これから力を入れていこうという2つの点をお伝えします。

まず1つは、財源の確保につながる企業版のふるさと納税の活用であります。

今後、私自身もトップセールスを行っていこうと思っておりますし、全庁挙げてシティセールスに取り組み、毎年目標額2億円の達成を努力してまいりたいと思っております。

もう1つは、利用可能な基金を有効活用していきたいと考えております。4次総の期間中にアセットマネジメントの推進していくわけですが、2月補正で創設した公共建築物の整備基金50億円ではありますが、これを最大限に活用していきたいと考えております。いずれにせよ、いろんなことをにらみながら市政を進めていかなければいけないということですので慎重に着実に、しかし、市民の期待には応えられるような、そんな市政運営を心掛けていきたいと思っております。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。前回も伺いましたが海洋ミュージアムの計画再開についてですが、改めて伺います。歴史博物館来年オープン、で、この海洋、市民文化会館の改修も140億円で、非常に大型の投資が相次ぎますし、エスパルスファンの期待も高いサッカースタジアムの計画も具体化していくということですが、どうしてこれだけ集中して、今の時期にいわゆる箱ものを次々とスタートさせる必要があるのか、ご説明を

お願いします。

◆市長

まず、3次総に登載している事業は、着実に取り組んでいくという姿勢であります。その中で先ほど申し上げている通りの、歴史博物館や海洋ミュージアムがあるわけがあります。海洋ミュージアムについて言えば、約2年、事業の停止をしてきたわけですが、この間も民間企業の皆さんにヒアリング、サウンディング等通じて先方の意向も確認しながら再開のタイミングを見てきました。コロナ終息を見据えた投資意欲が回復基調になっていることなどから、事業参画に前向きな意見が増えております。気運の高まりも感じられるようになりました。その気運を逃さずに「2つのLife」を守りながら、経済活動を少しずつ回していくために、公共投資を呼び水にして民間投資を促す、そして、経済の活性化につなげていくという1つの流れを作っていくと願っております。その1つのポイントが、この事業再開になろうかと思えます。

◆NHK

海洋ミュージアムについては、やはり一般の市民の方からの疑問として多く聞きますのが、三保の東海大の水族館あるじゃないかと、あれを市も一緒になって直せば、改修すればまだまだ十分いいじゃないかと、三保の観光客の周遊にもなるじゃないかという意見あるのですが、どうして、あちらをたたんでまで研究拠点ということですか、転化させてまで、新しい水族館施設が必要なのか、その点もご説明お願いします。

◆市長

これは数年来、コロナ禍以前から東海大学さんと海洋研究開発機構「AMSTEC」と「世界水準の施設を作ろうじゃないか」という目標のもとで議論を進めてきたわけがあります。東海大学さんもそれに賛同してくれております。世界的にも大変まれな深海を持つ駿河湾、太平洋、ここに様々な研究者の注目も集まっております。その拠点施設として、この海洋文化施設を位置づけていこうということが最初の志でありました。経済界の皆さんからのご支援もいただいております。また、議会の皆さんも一緒になって1つの先進モデルであるアメリカ、カリフォルニア州のモンレーの水族館も視察してまいりました。まず、ウォーターフロントにこれを立地し、バックヤードとしては三保半島の東海大学海洋学部という研究拠点もあるという配置の中で、国際海洋文化都市清水という特色を打ち出していきたいというふうに思っております。

◆NHK

入館見込みですけれども、初年度68万人ということで、コロナ前の計画と、これは変えないということで、コロナの影響による減は見込んでないということですが、

そもそも見通しが甘くないかという疑問と、入館者数が大幅に想定を下回った場合は、市が赤字分を折半で負担するロスシェアの仕組みもあるということですが、後年度の市の負担にならないか、その懸念については、どう説明されますでしょうか。

◆市長

最近の事業者の対話の中では、先ほど事業のコンセプトを共有した上で、需要予測をはじめとした一時停止前の収支計画等のスキームも前提として、「よし、なんとかいけるだろう」ということ、事業参画に向けて民間の事業者も前向きな姿勢を示しております。したがって、このことを1つのタイミングと見て、進めてまいりたいと思っています。

◆NHK

68万人の入館者数は達成可能だと、それは宣言できるものですか。

◆市長

これはこれからどうですか、クルーズ船等々がいつごろ戻ってくると記者はお考えでしょうか。そんなことにもよると思います。いろいろベストケースから様々なケースがこれから想定をされておりますけれども、私どもは努力していきたいというふうに思っています。

◆NHK

それと去年11月の会見でしたか、松坂屋静岡店さんが水族館を設けることについて、市長は相乗効果が高まるとおっしゃいました。これについては、議会の中でも相当疑問の声があって、相乗効果といっても水族館を周遊するという事はなかなか、いるかもしれないけれども、そんなに多くは見込めないだろうと、相乗効果というのは、ちょっと言葉の意味が分からないという意見が最大会派の中でも出ているようです。このあたり、逆にお客さんの奪い合いにならないかという懸念については、どうお考えでしょうか。

◆市長

これはまた、そういった懸念があるならば丁寧に説明していかなければなりません。やはり水というものを1つの共通のキーワードとした中でその魅力を市民の皆さんに提供していくという点では、この松坂屋さんが計画しているアクアリウムと、私どもが公的な機関と連携して提供していく海洋文化施設というのは、補完効果があるだろうというふうに私は目しております。

◆NHK

それは松坂屋さんと既にタイアップのお話をしているのか、あるいは松坂屋さんも、あと数か月以内にはその姿を見せるわけですが、それを踏まえて今後の海洋の設計にも食いつかないものを反映するとか、そういったことは既に協議が進んでいるのでしょうか。

◆市長

昨年、松坂屋の店長さんが、この件について説明に来てくれました。そのときに、我々は海洋文化施設を清水港のウォーターフロントに計画しているのですよ、ということをお願いしたところ、承知でありました。これから、その連携をどうするかという検討は、これからであります。そのときは、またお互いの事業の紹介をし合ったというところにとどまっております。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日本経済新聞

日本経済新聞社です。静岡市 20 年の国勢調査で人口 70 万人割り込んでいます。政令市の基準とされる数を下回ったとされています。今回、重点施策の中に、経済社会変革について人口活力の維持が初めて掲げられたと存じます。人口活力の維持について、市長のお考えを改めて伺いたいと思います。

◆市長

そうですね。3次総の7年間の経験を通じて定住人口のみでは、なかなか人口活力を維持するということができないという認識をせざるを得ません。ですので、成長拡大というよりも成熟、持続可能な、そういう静岡市を思考する中で人口活力を維持したい、そのためには、定住人口で人口を増やすだけではなくて、いわゆる交流人口であるとか関係人口、ここのところを深化させていくという手法をもって、総合的に人口活力を維持していくという戦略に、これから照準を合わせて4次総の議論も進めていきたいというふうに思っています。

◆日本経済新聞

今回、例えば、お試し体験事業とかに関しては、これ中山間地域、市内でも特に高齢化

比率が相当高い地域だと思うのですが、そういった地域に対してのお考えというのはいかがでしょうか。

◆市長

非常に重要な静岡市のポイントだと思います。SDGsの目標11にも「住み続けられるまちづくりを」という項目がありますが、静岡市内にそれを応用すると中山間地域にも、生活の不便なく住み続けられるまちにしていかなければいけないということでもあります。これは、これからデジタルの未来技術をふんだんに使って、中山間地域でも、例えば買い物とか、例えば交通等々にも不便がないような、そんな中山間地域づくりを立案していきたいというふうに思っております。これは国との連携も大事になってこようかと思えます。国もデジタル田園都市構想ということを岸田総理肝いりで主張されております。先日、川勝県知事も、「これは静岡県にも応用できるのではないか」という主張をされました。私も同感であります。古き良き静岡の1つの風景が中山間地域にありますので、そこに未来技術をふんだんに使って、住み続けられるまちにしていきたいというふうに、その議論をこれからしていきたいと思っております。

◆日本経済新聞

それに伴って、デジタル化の加速で推進主体を設立されるということですが、そういう意味では、やはり中山間地域なども同様に進めていくというのは、こういったような進め方をお考えでしょうか。

◆市長

そうですね。今年度既に交通Maasの実証実験を玉川地区の皆さんの協力を得てやっております。やはり公益性とともに事業性も確保しなければ、民間企業のビジネスチャンスにはなっていないですから、そのインキュベートということをしながらか、実装していきたいというふうに思っています。

◆日本経済新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。よろしくお願いします。田辺市長は、任期としては残りわずかになりますけれども、その中でこのような大型の、年度をまたがるような大きなプロジェ

クトを打ち出していますけれども、これというのは、今後も引き続き指揮をとって
いこうという続投の意思の表れと取っていいのでしょうか。

◆市長

それとは次元を違えて新年度の今任期に責任を持ちたいということでありませ
う。今任期
の中で次の総合計画を策定するというのも、私の責任だというふうに思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。冒頭のコロナの振り返りについて改めて確認させていただきたいので
すが、市長、感染前のご自身の行動を振り返って自粛すべきだったとか、ちょっと反省
すべきだった点とかはございませんでしょうか。説明では、県外からの知人の方と会食
されたと聞きましたが、そのときの距離が不十分だったとか、そういった反省点はござ
いますでしょうか。

◆司会

よろしいですか。幹事社質問でそういったご質問をいただいておりますので、先にその
他、ご質問よろしいでしょうか。当初予算案と臨時特別給付金、よろしいですか。
時事通信さんお願いいたします。

◆時事通信

すいません。時事通信です。よろしくお願いたします。まず、今回予算規模過去最大
とのことで、それに対する率直な受け止めをお伺いしたいのと、最初にポイント、今回
の予算のポイントをご説明いただきましたが、改めて、市長イチオシといえますか、
これに特に力を入れていきたいという事業、何かございましたら名前を挙げて教えてい
ただきたいです。お願いたします。

◆市長

いくつかポイントがあったと思いますけれど、まず、最初に過去最大になった予算案に
ついての受け止めであります。まず、ベースとしてご承知の通り、社会保障費が増大
してしまって、投資的な経費を圧迫しているということでありませう。その要因も大きい

ですけれども、一方、静岡市として先ほど申し上げている通り、政策的な経費についても3次総最後の1年でありますので、予算の重点化を、ここにも振り向けていかなければならないと、その結果として過去最大の予算につながっているということでもあります。2点あります。政策的な経費、まずはコロナであります。コロナ前だったら想定しなかったわけですが、ここに53億程度の対策を重点配分してあります。それから3次総の5大構想についても約55億、これは先ほどらい申し上げている通りでありますので、そんな政策的経費がかかったうえで社会保障費も、じりじりと増大しているという結果が今回の予算規模なんだというふうに受け止めております。

さて、その中で、じゃあ何に一番重点を置きたいかということでもありますけれども、それはもちろん、3次総掲載の5大構想はどれも重点事業でありますけれども、その中で1つ新しいことで取り上げるとしたら、プラモデルプライドプロジェクトであります。これは、数年前に提案をもらってプラモデル産業というのは、静岡市のものづくり産業のシンボルであると、また、国内生産シェア8割を超えておるので、これをシティプロモーションにも活用できるのではないかとのご提案をいただいた…

◆記者

すいません市長、ちょっと大きめの声でいただいて…

◆市長

ごめんなさい。はい、聞こえますか。そんな考え方でプラモニュメントを設置したり、ハード、ソフト、いろんな多種多様なプラモデルを活用した取り組みの中で、模型組合の皆さまとも連携しながらプラモデル産業の振興とともにシティプロモーションも促進していこうとそんなことでもありますので。これについては、これもコロナ禍で少しプラモニュメントの設置が遅れておりますけれども、今年度中にはもう1つ設置する予定でありますし、これを新年度展開していきたいなというふうに思っています。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

一点補足させていただきます。住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金の説明の中で、家計急変世帯の対象を「1月以降に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて」という説明をさせていただきましたが、正しくは「令和3年1月以降に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて収入が減少し」ということとなりますので、よろしく願いいたします。それでは幹事社質問のほうに移りたいと思います。静岡新聞さん、よろしく願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。先ほどもちょっとありましたけれども、市長は新型コロナウイルス感染後に本日が初登庁になるかと思えます。リモートで公務に当たっていたとのことですが、市政運営に影響はありましたか。また、家族や日頃行動を共にする人以外との飲食を控えるように呼び掛ける立場にありながら、県外の知人と私的な会食をしていたということですが、それについて市民に理解が得られるとお考えでしょうか。

◆市長

まず、2つご質問をいただいた1つ目ではありますが、県にまん延防止等適応された1月27日以降、市役所内の会議などは原則リモート対応としておりました。また、自宅療養期間中の式典などについては、市長の代理として副市長に対応いただきました。2月8日の市議会定例会の初日については、事前に議長の了解をいただいて欠席させていただきました。市議会の皆さまには、大変ご心配をおかけいたしました。市政運営に大きな影響はなく、支障はなかったものと考えておりますが、副市長や多くの職員の皆さんに私の穴を埋めていただいて、負担を増やしてしまったということは否めません。皆さんのご協力に大変感謝しております。

そして、2つ目の先ほどもご質問いただきました会食の件であります。先日、大長副市長からは、プライベートであるという説明がありましたが、面会の目的は今後の市政運営のための新年度事業についての政務活動で、決して不要不急なものではなく、どうしても今、お相手の方々と直接会ってお話ししなければいけないと判断したものです。今回の会食のみならず、日頃から感染予防をしっかり行っていたつもりでしたけれども、結果的に感染してしまったということは、私自身大変ショックでありました。オミクロン株の感染力の強さを、身をもって実感し誰もが感染する可能性があるということを感じております。私が感染してしまったことについては、昨日までに20件の市民の声をいただいております。行動が軽率だったというご指摘もあれば、無症状とはいえ無理せず療養するようにという激励もありました。感染した人が責められるべきではないということは大前提ではありますが、私、市長という立場でありますので、ご批判があるということは、いたし方がないと受け止めております。市民の皆さん全員のご理解をいただくことができるとは考えておりませんが、市民のこうした声を重く受け止めて、引き続き市政運営に謙虚に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

◆静岡新聞

もう1問、幹事社質問をお願いします。先日、静岡市が田辺市長の名前と似顔絵が描かれたシールを貼ったマスクを市内の高校生に配布し、直後に回収するという騒動がありました。当局の説明では、市長の指示はなかったとのことですが、今回の件をどのように受け止めていますか。

◆市長

今回の啓発事業は、若い方がオミクロン株に感染するという割合が高いという数字に基づいて、高校や部活動での感染拡大に強い危機感を抱いたために、高校生の皆さんに対して、市のメッセージを伝えることが目的でありました。当初では、私自身が2つの市立高校へ自ら訪問して、直接、高校生の皆さんに感染予防を呼び掛けたいというふうに思っていたのですが、感染拡大を助長するという可能性も指摘され、リモートでメッセージを伝えるというやり方になりました。その中で、各高校を通じて、職員の皆さんに現場に行ってもらって、チラシと啓発品としての私のメッセージを記載したシールを袋に貼ったマスクを、市内全ての高校生に配布することを決めました。メッセージを効果的に伝えていくために、名前と、広報紙でもしばしば使用しているイラストを加えたのですが、結果として皆様にご心配をかけることになってしまいました。多くの職員が携わっていましたが、私を含めて誰一人、これが選挙を意識した行動と捉えられる可能性になるということに、思いが至らなかったというのが正直なところです。気がつけばよかったな、というのが率直な私の思いです。誰かが、その可能性に気がついていれば固有名詞ではなくて、「静岡市長」とだけ記載していたはずで、結果的に冒頭申し上げた本来の目的とは違うかたちで注目されることになってしまったことを、大変残念に思っています。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問に関連するご質問をお受けしたいと思います。NHKさんお願いいたします。

◆NHK

NHKです。1問目の質問に対するご回答ですが、感染した人を責めるべきではないというのは、これはほぼ全市民共通した理解だと思えます。市長に意見が寄せられているとすれば、あくまで会食をしたこと、感染確認の2日前、ましてや、先月27日のまん延防止の段階で市職員に対しては、総務局長から「会食は家族か普段行動をともにする人で少人数に限る」という通知を出していたのにも関わらず、これに結果として反するようなかたちの会食を、市長が公務であれ、私用であれしていたことだと思えます。それについてはどう思っているのでしょうか。

◆市長

例年ならば、予算を策定する時期ですし、国との連携も必要ですし、もっと頻繁に毎日、平日は夜、いろいろな仕事をこなしていた中で、今年は最低限にしようということで、やむを得ないもののみ、会食したというのが実情であります。ただ、ご指摘の点です

けれども、感染防止対策として、市民の皆さんに様々な呼びかけやお願いをしてきましたが、これは決して、これを禁止するとか、こうしなさいとして市民の皆さんの行動を強制する、そういったものではありません。日本では、もとよりロックダウンはできない法体系になっております。感染予防のために、何をどこまで控えるのか、何がしかの行動するのかもしれないのかという判断、大切なのは、一人ひとりがいったん立ち止まって考えることだと思っております。今回の会食は私にとって重要で、この時期にとって必要なものであり、不要不急ではないというふうに判断させていただきました。ご理解をお願いしたいと思います。

◆NHK

つまり職員には、会食は家族か普段行動を共にする人、少人数と指示が出ているにも関わらず、市長はご自分の判断でお互いに体調に問題がないということを確認すれば、ご自分の判断でそうしたルールは踏み越えてもいいという立場にあると、お考えでしょうか。

◆市長

先ほど私が申し上げた趣旨が伝わっているのかなというふうに思いますが、日ごろからコミュニケーションが取れている相手で、お互いに健康状態を確認したということも判断基準の1つでありますけれども、これだけが全てではありません。市民の皆さんにも、最終的には個々が判断していただくべきものであり、市が何かを強制するというものではないということでもあります。

◆NHK

つまり市長は、市民に対しても日ごろからコミュニケーションが取れたり、健康状態に問題がないと判断されれば、それはご自身の判断で会食していただいていいですよ、という、そういうメッセージと受け止めてよろしいでしょうか。

◆市長

はい。概ねそういうことでもあります。

◆NHK

なお、市長は問題の「タナベノマスク」のメッセージの中で、リスクある行動は思いとどまるようにというメッセージを、まさに高校生に対して出したわけですがけれども、市長は、本当にこれ、会食が必要だったのか、単に会議で話す、あるいは電話で話す、オンラインで話すということでは代えられなかったのか、いかがでしょうか。

◆市長

代えられなかったんです。私はその日の仕事を全て終わることを待っていただいたわけですし、新年度の事業、これから組織を作っていく上でも、非常に現場の声も率直に聞けて、会合自体は有意義だったというふうに思っております。

◆NHK

市民に対する行動規範の参考材料になりますので、どうして電話で話す、オンラインで話す、あるいは会うにしても普通に会議室でお酒を伴わない、飲食を伴わないかたちでマスクを着けた状態で話すということではいけなかったのか、どういう会合であれば、お酒を伴う会食をしてもいいじゃないか、というのが市長の考えなのか、もう少し明確にお願いできますか。

◆市長

相手の方、新幹線を遅らせて待っていただいたわけですが、結局落ちあったのは7時半でした。当然、「じゃあ食事をしながら」ということになったわけです。また、ざっくばらんな話をする中で儀礼的に、じゃあ1杯一口ビールを飲もうということになったということです。ただし、もう8時には酒類の提供は飲食店できませんのでね。そこで「どうされますか」と、「ラストオーダーです」というスタッフの方に対して、「もう結構です」と、「食事をします」と、本来の新年度の事業について突っ込んだ話をするということでもありますので、そちらが主だったというご理解をいただきたいというふうに思います。

◆NHK

お酒も必要なのですね。そういう場合は。

◆市長

儀礼的にビールで乾杯したと、これはやっぱりね、コロナとは関係ないですけど、飲みにケーションで滑らかに、いろいろ本音で話せるということもあろうかと思えます。そういった意味では、ただ、それで口角泡を飛ばすとか大声を出すとかそういったことは、お互い大人ですから控えておりましたので、記者が心配するような状態ではなかったということ、ぜひご理解いただきたいと思えます。

◆NHK

他の記者さんからも出ましたが、市長、肝心なところで語気が弱く、非常に聞きとりづらいことあるので、次回の会見以降、気をつけていただきたいと思えます。以上です。

◆司会

その他いかがでしょうか。中日新聞さんお願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。その会食を共にされたお二方は、体調面だったり、検査の結果というのは、教えていただけるのでしょうか。

◆市長

はい。事前にPCR検査を受けて静岡に向かったということですし、その後も全く問題ないということを確認してあります。

◆中日新聞

分かりました。

◆司会

それでは、45分を過ぎておりますけれども何か、その他どうしてもこの1問、ということがあれば、受けさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。中日新聞さんでよろしいですか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

引き続きすいません。冒頭、歴史博物館の問題にも触れられていらっしゃいましたが、上下水道局のポンプ場しかり、法令違反が着工に当たって続いている問題に対して、市役所全体として、今後どう取り組んでいくお考えがありますか。いろんな見直しなどが、この2つに限らず必要だと思えます。

◆市長

おっしゃる通りですね。重大なこととして受け止めております。法令に対するチェックの甘さがあったというふうに私自身考えております。今後、内部統制を所管するコンプライアンス推進課も入って、この原因を追究してまいりたいと思えます。

◆中日新聞

たびたび上下水道局は、市長部局でないのでコンプライアンス推進課が入りきれないという話をいろいろ伺っていますけれども、そういうのは市長部局だとか、消防とかそういうのを越えてということよろしいですか。

◆市長

それは公営企業管理者と私自身がきちっと話をしながら適切な方法は何かということを検討していきたい。大事なことは、再発を防止するということ、職員の意識を変えていかなければいけないということでもありますので、それに対して一番効果的な手法は何か、ということだろうと思います。

◆中日新聞

その上下水道局に関しては、組織風土の問題にも触れていましたけれども、新年度で組織体制は、いろいろ検討は進んでいらっしゃるのでしょうか。

◆市長

そうですね。これは組織風土というのは、一人ひとりの職員の意識の問題だろうと思います。一朝一夕に変わるものではないというふうに私自身経験上感じています。しかし、その方向性を一つけん引していくという必要はあろうかと思っています。

◆中日新聞

同じく今の最後が聞きとれなかったです。

◆市長

ごめんなさい。一朝一夕に意識改革がなされるというふうに、私、経験上、思いませんが、しかし、コンプライアンスの観点から、じわじわと、やはり、そのあたりの職員の意識、組織風土というものを改めてまいりたいと、変えなければいけないというふうに思っています。

◆中日新聞

分かりました。

◆司会

それでは以上で。はい、どうぞ。

◆テレビ静岡

すいません。テレビ静岡です。一点すいません。コロナの会食の件ですが、7時半に新幹線を相手方が遅らせてお会いして時間も時間なので食事、会食しながらと説明がりましたが、会食をというふうに誘ったのはどっちなのですか。

◆市長

まあそれは、ホテルのロビーで落ち会いましたので、「じゃあ食事でも」ということになったわけでありませぬ。どちらからということではありませぬ。

◆テレビ静岡

でも、元々はどのような予定だったのですか。

◆市長

元々、そんなにたいしたことじゃないんですよ。自然の流れです。ですので、どうされたいというふうに思われますか、そのときに。

◆テレビ静岡

個人的には、市長が東京へ行く公務もあろうかと思うし、やっぱりオンラインよりも会って話すということの大事さはすごく感じるのは確かです。けれど、やっぱりリスクとか考えたら、なぜ会食でなければいけないか、さっき質問もありましたけれど、その中でやっぱり感染は仕方ないというか、責められることではないですが、市長としての立場の中で、どうして会食を伴うことになったのか、その部分が気になったものから。

◆市長

分かりました。それを受け止めて、会食ではない方法で会議ができなかったかどうか。

◆テレビ静岡

そのときはどうだったのかという。

◆市長

そのときは、腹も減ったし、お待たせもしてしまったし、「じゃあ食事でもしながら」という流れになったということでありませぬ。ただし、先ほど申し上げました通り、この会合で私が感染したということは考えられませぬので、そのことをご承知おきください。

◆テレビ静岡

感染経路は、だから以前不明のままですかね。

◆市長

そこではないということですよ。

◆テレビ静岡
分かりました。

◆司会
それでは、以上をもちまして本日の市長定例記者会見を終了させていただきます。
次回は2月28日、月曜日、11時からとなります。